

太古から現代までの美術 胎内市美術館

胎内市には城の山古墳出土の見事な副葬品や、国の重要文化財に指定されている「奥山荘波月条絵図」、「桃崎浜荒川神社奉納絵馬」など太古から現代までの優れた美術品が数多くあります。これらの貴重な美術品や、郷土にゆかりの深い作家作品などを身近に感じ、気軽に鑑賞することができるのが胎内市美術館です。

木のぬくもりを感じる落ち着いた雰囲気



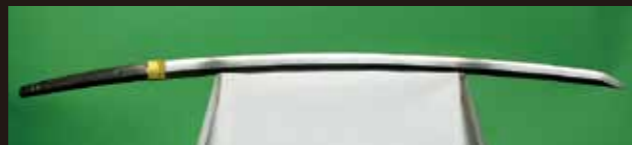
展示室 A



展示室 B

【日本美術史に代表されるものや、郷土ゆかりの作家作品】

いにしへの技 伝統の美



光忠 刀剣(鎌倉時代) 胎内市文化財



池大雅 「寿老人之幅」



渡辺華山 「薬師如来仏画」



酒井抱一 「椿之絵」

海外も注目 近代美術の超絶技巧



柴田是真 「蒔絵盆」



加納夏雄 「牡丹之図」



海野勝眠 「銀丸彫の鶯」

郷土ゆかりの作家たち

【佐藤哲三】

長岡市出身。脊椎カリエスを患いながら、10歳の頃画家を志します。29歳で旧加治川村に移り、子どもたちに絵を教え、その後新発田市で作家活動を続け農村の人々や新潟の風景を描き続けました。



「三ツ柿」1951年



「ぼら」1952年



【會津八一】
胎内市とのつながりは、八一の父が旧中条町、西条の丹呉家で養育されたことによります。昭和20年4月、東京空襲で罹災、養女キイ子とともに丹呉家へ疎開しました。



會津八一 書画



「蒲原獅子」1987年

【藤田熊雄】

大正7年新発田市生まれ。「蒲原獅子」「越後髻女」など蒲原の風俗をテーマにした作品を多く手掛けています。

【大平 實 造形作品】

胎内市出身の造形作家 大平實

胎内市(旧黒川村)出身。黒川小学校、黒川中学校を卒業。金沢美術工芸大学を卒業後、東京芸術大学大学院に進みます。現在はアメリカ・ロサンゼルスに移り、世界中で芸術活動を行い活躍されています。自然や素材との対話の中で創作した、木の温かみや、ぬくもりを感じる大きな作品がみられます。



大平 實氏



「起源2001-2」2001



「鳥」1999

財団法人北越美術博物館 山本 順 コレクション 寄贈美術品も館内に収蔵・展示されています。



山本 順氏

財団法人北越美術博物館は1986年に初代理事長山本順氏(1911年～2000年)が中条町(現胎内市)に設立しました。館蔵品は山本順氏が長年に渡り収集したものを、後世に残し伝えたいと財団法人に寄附したものです。2012年に美術館を運営する財団法人(理事長山本邦彦)よりこれら美術品が胎内市に託され発展的解散をする運びとなり、故人の遺志を引き継がれた御子息山本邦彦・山本善政両氏より館蔵品の寄贈と、美術館建設資金の一部寄附をいただきました。胎内市に寄贈された美術品は、陶磁器、書画、工芸品、歴史資料など総数1,000点に及び、日本美術史に代表されるものや、郷土にゆかりの深い作家作品などが含まれます。